

# 【第2次札幌新まちづくり計画 平成20年度進行管理評価結果】

## 『政策目標1 子どもを生き育てやすく、健やかにはぐくむ街』

### 重点課題2 未来を担う子どもが健やかに育つ環境の充実

#### < 施策の基本方針 >

札幌の明日を担う子どもたちが、未来に夢を持ち、個性や能力を發揮し、心身ともに健やかに育つ環境づくりを進めるため、自ら考える力や思いやりと豊かな心をはぐくむ取り組みを実施します。また、子どもの相談体制の強化や学びの意欲を育てるなど、のびのびと成長・発達していける教育環境の充実を、学校、家庭、地域社会がそれぞれの役割を果たしながら連携して推進します。

#### 事業費の進捗率

(H19決算額 + H20予算額) 2,158,492千円 / (計画事業費) 7,010,000千円 : 30.8 %

#### 施策別の主な取組内容

##### 19年度(実績)

【施策1】学びの意欲を育てる学校教育の推進  
・市立札幌大通高校暫定校舎改修工事等開校準備業務を実施。  
・奨学金拡充に関する計画立案。

##### 【施策2】健やかな育ちの推進

・特別支援教育巡回相談員を3名から10名に増員。特別支援教育研究モデル事業における地域ボランティアに係るモデル事業等を実施。  
・スクールカウンセラーを全ての小学校に派遣、スーパーバイザーの増員を実施。

##### 【施策3】自らが考え思いやりと豊かな心をはぐくむ環境づくり

・「ミニさっぽろ」「大志塾」「林間学校」等の社会・野外体験事業実施。  
・児童会館の中・高校生夜間利用を20館増の40館で実施。ミニ児童会館を余裕教室の活用等により11館整備。  
・子どもの権利条例素案を策定し、パブリックコメントを実施。

##### 20年度(予定)

【施策1】学びの意欲を育てる学校教育の推進  
・奨学金採用人数を180人程度増やす。また、「定時制高等学校の生徒」と「障がいのある生徒・学生」という新たな採用枠を設ける。  
・外国語指導助手(ALT)48名配置(19年度より5名増員)。

##### 【施策2】健やかな育ちの推進

・特別支援教育巡回相談員配置モデル事業、特別支援教育支援員活用事業等の実施。  
・スクールカウンセラーによる小学校、中学校における派遣時間を増やすなどさらなる充実を図る。

##### 【施策3】自らが考え思いやりと豊かな心をはぐくむ環境づくり

・「ミニさっぽろ」「大志塾」「林間学校」等の社会・野外体験事業実施。  
・児童会館の中・高校生夜間利用を20館増の60館で実施。ミニ児童会館を余裕教室の活用等により6館整備。  
・「札幌市放課後子どもプラン」策定及び同プランの推進。  
・子どもの権利条例の制定及び救済機関の設置準備等。

#### 市民・企業等との協働の状況

##### 市民との連携、市民参加

・わたしたちの児童会館づくり事業：子ども運営委員会を児童会館・ミニ児童会館全館に設置。子どもたちが児童会館運営等に主体的に関わる機会をつくり、子どもたちの意見や要望等を行事等に積極的に取り入れている。

##### 企業等との連携・協働

・子どものまち「ミニさっぽろ」事業：民間団体参加の実行委員会を組織し、また、協賛企業を募り、資金、人材等の協力を得るなど、企業等との連携・協働のもとで事業を実施している。

##### 市民・企業等が参加しやすい環境づくり

・児童会館における中・高校生の利用促進：中・高校生の夜間利用をきっかけに、ボランティア活動の広がりや地域行事への参加等、中・高校生と地域との関わりが深められた。また、地域においても児童会館事業全般に対する関心が高まってきたことから、参加、協力が増加してきており、市民が参加しやすい環境づくりが進められている。

#### 評価(成果)と課題

##### 【施策1】学びの意欲を育てる学校教育の推進

・外国語指導助手について、民間業務委託(Non-JETALT)導入の効果検証を継続して行い、委託形態や入札方法等について検討を行う必要がある。札幌市奨学金については、市長マニフェストで2010年度までに支給対象の倍増が政策項目となっており、20年度補充採用から段階的拡大を図る。

##### 【施策2】健やかな育ちの推進

・特別支援教育巡回相談員を増員し、全市の小中学校を対象としたことにより、学校支援体制を充実させた。  
特別支援教育巡回相談員の統括のため、より高度な専門性を有する指導主事及び精神科療法士(セラピスト)の配置が必要である。  
・スクールカウンセラーを、全ての小、中、高に配置、各学校における相談件数が増加、保護者にも広く理解されるようになった。  
年齢や経験年数等、様々なスクールカウンセラーを任用している状況にあり、スクールカウンセラーの質の向上が課題である。

##### 【施策3】自らが考え思いやりと豊かな心をはぐくむ環境づくり

・社会・野外体験等の様々な体験機会を提供することを通じ、創造性や自主性をはぐくみ、文化芸術等の理解を促進することができた。ミニ児童会館の整備や児童会館における中・高校生の夜間利用拡大等により、安全で安心できる放課後の居場所づくりを進めることができた。  
各体験事業について、参加対象の拡大や質の高い体験機会の提供のための工夫が求められる。放課後の居場所の確保について、中・高校生の夜間利用の拡大を引続き進め、また、ミニ児童会館の整備については余裕教室活用などのほか、新たな手法も含め対応を検討する必要がある。

#### 今後の重点取組

未来を担う子どもが健やかに育つ環境の充実に向けて、学校教育や特別支援教育の更なる充実を図るとともに、いじめ・不登校や児童虐待に対応する取り組み、放課後の居場所づくりに向けた取り組みを推進していく。

具体的には、学習指導要領の改訂に伴う外国語指導助手の小学校への配置についての検討、奨学金支給対象を2010年度までに倍増することを目標とした段階的な拡大、特別支援教育巡回相談員について専門的見地による相談体制の更なる充実、多様化する児童生徒の心の問題に対処するためのスクールカウンセラーの質の向上とその効果的な活用の検討などに取り組んでいく。

また、将来的にはすべての小学校区で放課後などの居場所を確保することを目標に、地域の実情に応じた柔軟な対応を図っていく。さらに、子ども一人ひとりの権利が尊重された社会の実現に向け、子どもの権利条例に基づく新たな救済機関の設置、推進計画の策定などの取り組みを進めていく。

#### 主な達成目標の状況

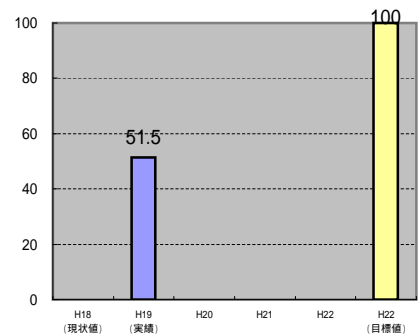
達成目標名	目標値(目標年度)	H18(現状)	H19(実績)
奨学金支給対象数	1,000人(H22)	456人	463人
児童家庭支援センター設置数(累計)	4カ所(H21)	2カ所	2カ所
(いじめ・不登校対策)小学校の相談時間数	月4時間(H20)	-	月2時間
(いじめ・不登校対策)中学校の相談時間数	週8時間(H20)	週6時間	週6時間
地域小規模児童養護施設設置数	1カ所(H22)	-	-

#### 主な施設・サービスの整備水準

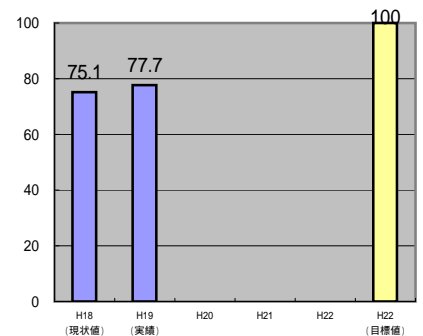
施設(サービス)名	整備水準	H18(現状)	H19(実績)
外国語指導助手	58人(H22)	43人	43人
学校図書館地域開放	99校(H22)	87校	90校
奨学金(高校・大学生)	1,000人(H22)	456人	463人
児童家庭支援センター事業	4カ所(H22)	2カ所	2カ所
スクールカウンセラー	小学:月4時間(H20) 中学:週8時間(H20)	小学:- 中学:週6時間	小学:月2時間 中学:週6時間
児童クラブなどの障がい児受入	1人以上で指導員加配、助成(H19)	2人以上で指導員加配、助成	1人以上で指導員加配、助成
特別支援教育巡回相談員	10人(H19)	3人	10人
地域小規模児童養護施設	1カ所(H22)	-	-
児童会館の中・高校生の利用促進	104館(H22)	20館	40館
ミニ児童会館	70館(H22)	40館	51館

#### 成果指標等の動向

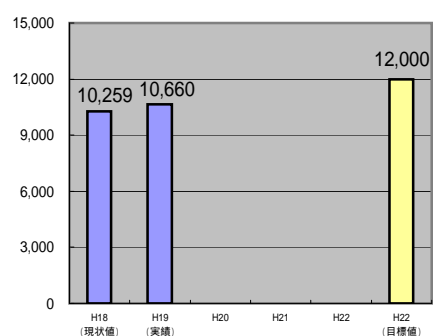
家庭などにおいて、自分の興味のあることについて調べたり、勉強したりしている児童生徒の割合(単位:%)



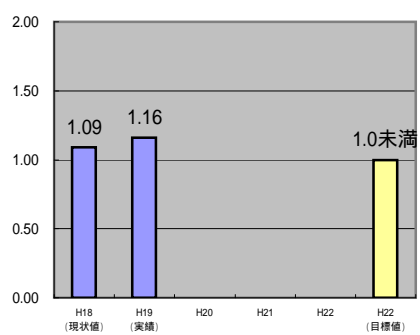
地域への授業公開校の割合(小・中学校)(単位:%)



小・中学校における地域人材の活用人数(単位:人)



不登校児童・生徒の出現率(単位:%)



児童会館で行われている事業の参加者数(単位:万人)

